

千葉県市川市・署名提出から議会審議の場へ・・・

平和・無防備条例をめざす市川の会 山口兼男さん

直接請求の署名活動は、4月17日に終了し、法定数7530筆を大きく上回る12550筆の署名を22日選挙管理委員会に提出しました。

開始直後は、3月中旬で防寒具を着用しての署名でいたが、4月に入り桜の花の時期を通り越すと「会」のメンバーの顔は真つ黒に日焼けしていました。

市川市は、東京都に隣接し、人口約45万人。昔ながらの商店街がなく、大型店に車で買い物に出かけるケースが多いところです。点在するスーパーも署名を集めるスペースが少なく署名スポット探しや、雨対策（実質できず）には苦労しました。

一方、市役所総務課は、署名活動に対し、庁舎の敷地内の一定範囲に許可をし、支所、出張所、図書館の敷地内での署名ができたことは非常に大きかったです。個人情報への警戒心が強い中、安心できる署名と市民に訴えることができたからです。

平日は市役所、支所、出張所前で、休日は、スーパーなどで集め

ました。毎日の担い手は現役をリタイアした熟年者の活躍でした。約8割は街頭で集めたものです。「ほんとうに署名集めがうまくなった」と感想を語っています。また、教員のOGのみなさんは、「自分の教え子がイラクに行く時代になった。なんとかしなくちゃ」と教え子ルートで署名を集めてくださいました。40名を超える方が街頭署名に参加させました。

法定数にいつ達するかとやきもきする日々でしたが、お花見会場での署名（後でクレームがきたが）、受任者の方々の創意、協力で、4月7日に、法定数突破。朝日新聞にも記事がのり、はずみがつきました。「会」事務所の当番も交替で入っていただき、署名持込もしやすくなりました。

署名活動の中での反響

やはり、中年の女性、戦争体験者、そして若い子ども連れのお母さんが多く署名してくださいませ

した。市川のチラシには、三番瀬（東京湾に残された干潟）で遊ぶ親子の写真が出ています。「戦争に協力しない町、そして、子どもたちに平和な町を残す」という思いが伝わったようです。中には、「戦争を肯定している署名か?」「市川市だけ守られていいのか?」との批判もありますが、戦争体験者は、昨日のこのように体験談を語られ、戦争国家へとすすんでいる今の社会を重ね合わせているようでした。

議会は、6月7日から。

5月初旬に、署名スポットなどでお礼と議会へ注目のための宣伝行動をしました。

議会の会派構成からすると、非常に厳しい状況です。ただ、署名をしてくださった議員もあり、署名の重みで条例制定に前進したいと思っています。まずは各会派への総あたりです。

ポイントは、

国民保護法制の地方への具体化に対する対案としての無防備地域宣言です。千葉県富浦町では、テロリストの上陸を想定した避難訓練がされました。ここには小学生も動員されています。市川市でそのような訓練などできるはずはなく、また、自衛隊を巻き込

んでの保護法制づくりをやめさせないといけません。有事を想定した保護計画をつくれという圧力に対し、市川は、無防備宣言で行くというスタンスをとらせることです。

日米の軍事再編に対して、市川市には米軍、自衛隊の基地はありません。ただ、自衛隊の習志野駐屯地のヘリは上空を飛んでいます。軍隊のない環境を将来にわたって担保するのに、この条例化はぜひとも意味をもつという点です。「基地の無い市川を、将来も」という訴えには非常に共感があります。

品川区での議論を踏まえて、自治体の役割を鮮明にし、議論を前進させることです。

市川の息吹を千葉へ。署名の過程では、「よくぞ集まった」という声が市外の方からも多く出てきました。

千葉県下の他の市でも無防備直接請求運動ができるように千葉ネットの結成をめざします。

